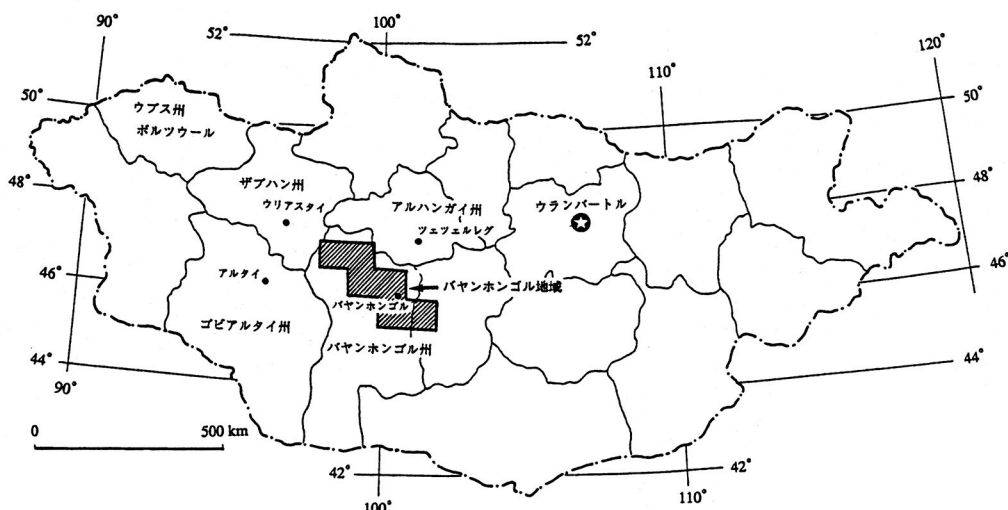


1:200,000 Digital Geological Map of Mongolia L-47-IX

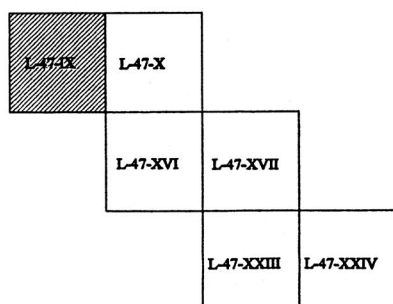
20万分の1モンゴル数値地質図



日本の5万分の1地質図に相当するモンゴルの基本的地質図は20万分の1地質図である。この縮尺の地質図も含め、モンゴルの地質図のごく一部が旧ソ連によって印刷されたことがあるだけでモンゴル国内では過去に地質図が印刷・出版されたことがない。地質調査によって作成された地質図は、手書きの原図が1部存在するだけである。従って、ここに登録された地質図は、数値化された地質図として最初のものであると同時に、カラープリントとして多数の部数が発行されたものとしてもモンゴル最初のものである。

この地質図は、国際協力事業団（JICA）のプロジェクト方式技術協力「モンゴル地質鉱物資源研究所プロジェクト」（1994～1999）の中で、日本の地質調査所とモンゴル地質調査所及びそれに係わる多数の関係者の現地調査、資料収集の努力によって作られたものである。このプロジェクトでは、フィールド調査に係わる技術協力は、モンゴル中部のバヤンホンゴル地域において地質調査と鉱物資源探査を実施する中で行われた。その成果のひとつとしてとりまとめられたのが20万分の1数値化地質図6シートと6シートを総括した50万分の1数値化地質図である。ここに登録されたものはそのうちの1シート（L-47-IX）である。

L-47-IX



地質図L-47-Xの地域には、沖・洪積層を除くと、先カンブリア紀から古生代二畳紀にいたる堆積岩類、変成岩類、花崗岩類が広く分布する。それらは、北西-南東方向の5帯の地質構造帯に区分される（北東からハンガイ帯、ザググ帯、バヤンホンゴル帯、ブルドゴル帯、バイドラグ帯）図中央のバヤンホンゴル帯を構成する岩石は、主としてオフィオライトからなり、この帯によって隔てられる北東と南西の地質構造帯は全く異なる地質単元に属すると考えられる。なお、地質の詳細については、50万分の1モンゴル数値地質図（バヤンホンゴル地域）を参照。